科目名称	臨床看護実践と総合評価	学年学期	単位数	時間数
		3 学年後期	1	15
担当教員	福田　栄江	授業に関わる実務経験	■　有　（看護師　） □　無	

【1】 授業概要

対象の状況に基づき安全の確認・確保と、優先順位を考えた問題解決方法など、対象の要件・状況判断を含めた総合的な看護技術が提供できる。

【2】 学習目標

1. 複数の事例をチームで担当し、優先順位を考えた行動計画が立案できる。
2. チームメンバーと協力しながら、対象の状況に応じた安全で安楽な看護援助が実施できる。
3. 実施した援助が適切であったか評価ができる。
4. 自分の行動特性を理解し、改善点に気がつくことができる。

【3】 第 2 看護学科ディプロマポリシーとの関連性

□　1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。
■　2. 人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。
■　3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護実践をすることができる。
■　4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
□　5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種の連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。
□　6. 松山市および愛媛県周辺の地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる。
■　7. 自己の資質向上のため、看護に対する探究心・向上心をもち、主体的に学び続けることができる。

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	オリエンテーション	講義・演習
2	多重課題とタイムマネジメント	講義
3	シナリオ患者の理解	講義・演習
4	演習（1 回目）	演習
5	演習（2 回目）	演習
6	OSCE 実施	実技試験
7		
8	リフレクション	講義

【5】 評価方法

課題 15 点、提出物 15 点、実技 70 点（42 点未満は実技の再試験） により総合的に評価する。

【6】 教科書

教科書は使用しない

【7】 参考書

成人看護学教科書（器官系統別）

茂野香おる：系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[1]　基礎看護学概論(第 17 版)　医学書院　2024（電子版）

中村恵子：看護 OSCE　メヂカルフレンド社　2011

大滝純司：OSCE の理論と実際　篠原出版社　2007

下条文武：事例で学ぶ OSCE 基本臨床技能試験のコアスキル　西村書店　2004.

ヘレン・ウォード：高度看護 OSCE－高度な臨床スキル評価成功へのガイド，へるす出版　2014

【8】 受講生へのメッセージ

3 年間の学びの集大成となるように学習しましょう。